

【解答・解説編】

1 章 多項式（式の展開と因数分解）

1 次の計算をなさい。

(1) $6a(a-2)$

(2) $(2x-5y) \times (-y)$

(3) $(12x^2-9xy) \div (-3x)$

(4) $(3ab+4a) \div \frac{1}{2}a$

【ポイント】

分配法則

$(a+b)c=ac+bc$ $c(a+b)=ca+cb$ を用いると計算することができる。

除法は逆数を用いて乗法にして計算する。

【解答】

(1) $6a(a-2) = 6a^2 - 12a$

(2) $(2x-5y) \times (-y) = -2xy + 5y^2$

(3) $(12x^2-9xy) \div (-3x) = (12x^2-9xy) \times \left(\frac{1}{-3x}\right) = -4x + 3y$

(4) $(3ab+4a) \div \frac{1}{2}a = (3ab+4a) \times \frac{2}{a} = 6b + 8$

2 次の式を展開しなさい。

(1) $(a+2)(b-7)$

(2) $(2x-3)(3x+1)$

(3) $(x-1)(x-2y+3)$

【ポイント】

(1)(2) $(a+b)(c+d)$ を展開すると、
 $ac+ad+bc+bd$ になることを使う。

(3) $x-2y+3$ を 1 つの文字とみて、
分配法則を使うことができる。

$$(a+b)(c+d) = ac + ad + bc + bd$$

【解答】

(1) $(a+2)(b-7) = ab - 7a + 2b - 14$

(2) $(2x-3)(3x+1) = 6x^2 + 2x - 9x - 3 = 6x^2 - 7x - 3$

(3) $(x-1)(x-2y+3) = x(x-2y+3) - (x-2y+3)$
 $= x^2 - 2xy + 3x - x + 2y - 3$
 $= x^2 - 2xy + 2x + 2y - 3$

$x-2y+3$ を M とすると、
 $(x-1)(x-2y+3) = (x-1)M$ で、
 $xM - M$ となるね。

3 次の式を展開しなさい。

(1) $(x+6)(x+7)$

(2) $(a-2)(a-9)$

(3) $(x+5)^2$

(4) $(x-8)^2$

(5) $(x+9)(x-9)$

(6) $(y+3)(3-y)$

(7) $(3x+5)(3x-4)$

(8) $(x+2y+2)(x+2y-2)$

【ポイント】

(1)(2) 次の公式が使えないか考える。 $(x+a)(x+b)=x^2+(a+b)x+ab$

(3)～(6) 次の公式が使えないか考える。 $(x+a)^2=x^2+2ax+a^2$

$$(x-a)^2=x^2-2ax+a^2$$

$$(x+a)(x-a)=x^2-a^2$$

(7) $(a+b)(c+d)=ac+ad+bc+bd$ が使えないか考える。

【解答】

(1) $(x+6)(x+7) = x^2 + (6+7)x + 6 \times 7 = \mathbf{x^2 + 13x + 42}$

(2) $(a-2)(a-9) = \mathbf{a^2 - 11a + 18}$

(3) $(x+5)^2 = x^2 + 2 \times 5 \times x + 5^2 = \mathbf{x^2 + 10x + 25}$

(4) $(x-8)^2 = x^2 - 2 \times 8 \times x + 8^2 = \mathbf{x^2 - 16x + 64}$

(5) $(x+9)(x-9) = x^2 - 9^2 = \mathbf{x^2 - 81}$

(6) $(y+3)(3-y) = (3+y)(3-y) = 3^2 - y^2 = \mathbf{9 - y^2}$

(7) $(3x+5)(3x-4) = (3x)^2 + (5-4) \times 3x + 5 \times (-4) = \mathbf{9x^2 + 3x - 20}$

(8) $x+2y=M$ とおくと,

$$(x+2y+2)(x+2y-2) = (M+2)(M-2) = M^2 - 2^2$$

$$= (x+2y)^2 - 4 = \mathbf{x^2 + 4xy + 4y^2 - 4}$$

4 次の にあてはまる数や式を求めなさい。

$$(1) -6a(\text{ } - 3a) = -24ax + \text{ }$$

$$(2) (x+5)(x+\text{ }) = x^2 + \text{ } + 30$$

$$(3) y^2 - \text{ } + \frac{1}{25} = (y - \text{ })^2$$

$$(4) \text{ } - 9b^2 = (7a + \text{ })(7a - \text{ })$$

【ポイント】

分配法則や乗法公式を使って、何と何をかけるのかをよく考えてみる。

$$(2) (x+a)(x+b) = x^2 + (a+b)x + ab \quad \text{それぞれよく見比べてみよう。}$$

$$(3) (x-a)^2 = x^2 - 2ax + a^2$$

$$(4) (x+a)(x-a) = x^2 - a^2$$

【解答】

$$(1) -6a(\text{ } 4x - 3a) = -24ax + \text{ } 18a^2$$

$$(2) (x+5)(x+\text{ } 6) = x^2 + \text{ } 11x + 30$$

$$(3) y^2 - \text{ } \frac{2}{5}y + \frac{1}{25} = (y - \text{ } \frac{1}{5})^2$$

$$(4) \text{ } 49a^2 - 9b^2 = (7a + \text{ } 3b)(7a - \text{ } 3b)$$

5 次の(1)～(3)に答えなさい。

(1) 10以下の素数をすべて求めなさい。

(2) 54を素因数分解しなさい。

(3) 54にできるだけ小さい自然数をかけて、その積がある自然数の2乗になるようにします。
どんな数をかければよいですか。

【ポイント】

(1) 3や5のように、1とその数自身の積以外に2つの自然数の積の形に表せない自然数を素数という。ただし1は素数に含まれません。

(2) 54を小さい素数から順にわってみる。

(3) ある数の2乗になるには、素因数分解した数の各指数がすべて偶数となる必要があります。

【解答】

- (1) 10 以下の素数は、2, 3, 5, 7
- (2) 54 を素因数分解すると、 $54=2 \times 3^3$
- (3) $54=2 \times 3^3=(2 \times 3) \times 3^2$ となるので、指数をすべて偶数にするには、2 と 3 を 1 つずつかける必要がある。したがって、 $2 \times 3=6$ をかければよい。 答 6

6 次の問いに答えなさい。

- (1) 下の式の展開で、まちがっているところを正しくなoshinさい。

$$(x-7)(x+6)=x^2+x-42$$

- (2) 次の式は $x^2-3x-18$ を因数分解しているとはいえません。そのわけをいいなさい。

$$x^2-3x-18=x(x-3)-18$$

【ポイント】

- (1) $(x+a)(x+b)=x^2+(a+b)x+ab$
- (2) 右辺の式の形がどうなっていれば因数分解したことになるか振り返ってみる。

【解答】

- (1) $(x-7)(x+6)=x^2-x-42$
- (2) 右辺が因数の積で表されていないから。
 $x^2-3x-18$ を因数分解すると、 $x^2-3x-18=(x+3)(x-6)$ になる。

7 次の式を因数分解しなさい。

- (1) $ax+6ay$ (2) $15ax-5ay$ (3) $3ab+6ac+a$
- (4) $5x^2-10xy$ (5) $6a^2b-3ab$

【ポイント】

まずは共通な因数をくくり出し、因数分解をする。

【解答】

- (1) $ax+6ay=a(x+6y)$ (2) $15ax-5ay=5a(3x-y)$
- (3) $3ab+6ac+a=a(3b+6c+1)$ (4) $5x^2-10xy=5x(x-2y)$
- (5) $6a^2b-3ab=3ab(2a-1)$

8 次の式を因数分解しなさい。

- (1) $x^2 + 10x + 24$ (2) $a^2 + 11a + 18$ (3) $x^2 - 10x + 9$ (4) $y^2 - 15y + 56$
(5) $y^2 + 2y - 48$ (6) $x^2 - 7x - 60$ (7) $y^2 + 12y + 36$ (8) $m^2 - 6m + 9$
(9) $a^2 - 1$ (10) $x^2 - 64$ (11) $16x^2 - 24x + 9$ (12) $a^2 + 2ab + b^2$
(13) $49x^2 - 36y^2$ (14) $3x^2 - 24x + 48$ (15) $(x-1)^2 - 6(x-1) - 27$
(16) $xy + 5y - x - 5$

【ポイント】

共通な因数があればくくりだし、これまでに学んだ下の公式が使えないか考えてみる。

$$x^2 + (a+b)x + ab = (x+a)(x+b)$$

$$x^2 + 2ax + a^2 = (x+a)^2$$

$$x^2 - 2ax + a^2 = (x-a)^2$$

$$x^2 - a^2 = (x+a)(x-a)$$

【解答】

- (1) $x^2 + 10x + 24 = (x+4)(x+6)$ (2) $a^2 + 11a + 18 = (a+2)(a+9)$
(3) $x^2 - 10x + 9 = (x-9)(x-1)$ (4) $y^2 - 15y + 56 = (y-7)(y-8)$
(5) $y^2 + 2y - 48 = (y-6)(y+8)$ (6) $x^2 - 7x - 60 = (x+5)(x-12)$
(7) $y^2 + 12y + 36 = (y+6)^2$ (8) $m^2 - 6m + 9 = (m-3)^2$
(9) $a^2 - 1 = (a+1)(a-1)$ (10) $y^2 - 64 = (y+8)(y-8)$
(11) $16x^2 - 24x + 9 = (4x)^2 - 2 \times 4 \times 3x + 3^2 = (4x+3)^2$
(12) $a^2 + 2ab + b^2 = (a+b)^2$ (13) $49x^2 - 36y^2 = (7x)^2 - (6y)^2 = (7x+6y)(7x-6y)$
(14) 共通な因数3をくくりだして、因数分解する。
 $3x^2 - 24x + 48 = 3(x^2 - 8x + 16) = 3(x-4)^2$
(15) $x-1=M$ とおくと,
 $(x-1)^2 - 6(x-1) - 27 = M^2 - 6M - 27 = (M-9)(M+3)$
 $= (x-1-9)(x-1+3) = (x-10)(x+2)$
(16) $xy + 5y - x - 5 = x(y-1) + 5(y-1) = (y-1)(x+5)$

9 次の式を工夫して計算しなさい。どのように工夫したかわかるように、途中の計算もかきなさい。

(1) 95×105

(2) 41^2

(3) $65^2 - 35^2$

【ポイント】

(1) $95 = 100 - 5$, $105 = 100 + 5$ とみて、公式が使えないか考えてみる。

(2) $41 = 40 + 1$ とみて、公式 $(x+a)^2 = x^2 + 2ax + a^2$ を利用する。

(3) $65^2 - 35^2$ は、2乗どうしの差だから、公式 $x^2 - a^2 = (x+a)(x-a)$ を利用する。

【解答】

(1) $95 \times 105 = (100 - 5)(100 + 5) = 100^2 - 5^2 = 10000 - 25 = \mathbf{9975}$

(2) $41^2 = (40 + 1)^2 = 40^2 + 2 \times 40 + 1 = 1600 + 80 + 1 = \mathbf{1681}$

(3) $65^2 - 35^2 = (65 - 35)(65 + 35) = 30 \times 100 = \mathbf{3000}$

10 次の㊶と㊷では、どちらの方が、計算結果が大きくなりますか。

㊶ 364×366

㊷ 363×367

【ポイント】

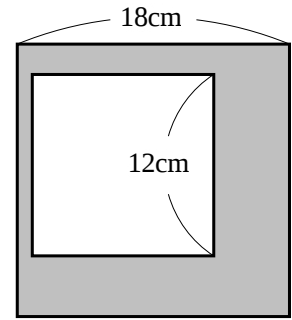
2つのかける数について、365からの差が同じことから、公式 $(x+a)(x-a) = x^2 - a^2$ が使えないか考えてみる。

【解答】

㊶ $364 \times 366 = (365 - 1)(365 + 1) = 365^2 - 1^2 = 365^2 - 1$

㊷ $363 \times 367 = (365 - 2)(365 + 2) = 365^2 - 2^2 = 365^2 - 4$ したがって、㊶の方が大きい。

- 11 右の図は、1辺が18cmの正方形から、1辺が12cmの正方形を切り取ったものです。色のついた部分の面積を求めなさい。



【ポイント】

色のついた部分の面積を求めるには、1辺が18cmの正方形の面積から、1辺が12cmの正方形の面積をひくとよい。

【解答】

(色のついた部分の面積) = (1辺が18cmの正方形の面積) - (1辺が12cmの正方形の面積)
と考えて、

$$18^2 - 12^2 = (18 - 12)(18 + 12) = 6 \times 30 = 180$$

答 180cm²

- 12 連続する4つの整数のうち、中の2数の積は、最小の数と最大の数の積より2大きくなります。このことを証明しなさい。

$$\begin{array}{l} 3, 4, 5, 6 \\ 4 \times 5 - 3 \times 6 = 2 \end{array}$$

【ポイント】

連続する4つの整数を文字の式で表し、中の2数の積を表す式と、最小の数と最大の数の積を表す式をそれぞれつくり、それらの差が2であることを示す。

【解答】

連続する4つの整数のうち、もっとも小さい整数を n とすると、連続する4つの整数は、 $n, n+1, n+2, n+3$ と表される。

このとき、中の2数の積を表す式は、 $(n+1)(n+2)$ と表すことができる。

一方、最小の数と最大の数の積は、 $n(n+3)$ と表すことができる。

よって、中の2数の積から最小の数と最大の数の積をひくと、

$$(n+1)(n+2) - n(n+3) = n^2 + 3n + 2 - n^2 - 3n = 2$$

したがって、連続する4つの整数のうち、中の2数の積は、最小の数と最大の数の積より2大きくなる。

(※最小の数と最大の数の積より2大きい数を、 $n(n+3)+2$ と表し、

$(n+1)(n+2)$ と $n(n+3)+2$ が等しいことを示してもよい。)

13 2つの続いた整数では、大きい数の平方から小さい数の平方をひいたときの差は、どんな数になるか予想しなさい。また、それが成り立つことを証明しなさい。

$$1^2 - 0^2 = 1 - 0 = 1$$

$$2^2 - 1^2 = 4 - 1 = 3$$

$$3^2 - 2^2 = 9 - 4 = 5$$

【ポイント】

大きい数の平方から小さい数の平方をひいてできる数をいくつか求め、それらに共通する性質を見いだして予想する。

2つの続いた整数を文字の式で表し、大きい数の平方から小さい数の平方をひいたときの差の式をつくり、その式を計算して、予想した結果になるかどうかを示す。

【解答】

予想：大きい数の平方から小さい数の平方をひいたときの差は 1, 3, 5, …。

2つの続いた整数の、大きい数の平方から小さい数の平方をひいたときの差は奇数と予想できる。

【予想が成り立つことの説明】

2つの続いた整数のうち、小さい方の整数を n とすると、2つの続いた整数は、 n , $n+1$ と表される。

このとき、大きい数の平方から小さい数の平方をひいてできる数を表す式は、

$(n+1)^2 - n^2$ と表すことができる。

$$(n+1)^2 - n^2 = n^2 + 2n + 1 - n^2$$

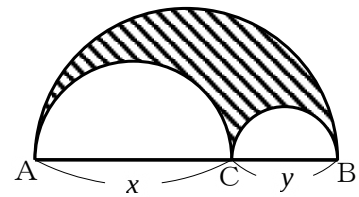
$$= 2n + 1$$

したがって、2つの続いた整数の、大きい数の平方から小さい数の平方をひいたときの差は奇数である。

14 右の図のように、線分 AB を直径とする半円があります。

また、線分 AB 上に点 C があり、線分 AC を直径とする半円と、線分 BC を直径とする半円があります。

$AC=x$, $BC=y$ とするとき、斜線部分の図形について、次の問いに答えなさい。



(1) 周の長さを求めなさい。

(2) 面積を求めなさい。

【ポイント】

AB を直径とする半円の半径は $\frac{x+y}{2}$, AC を直径とする半円の半径は $\frac{x}{2}$, BC を直径とする半円の半径は $\frac{y}{2}$ 。

(1) 斜線部分の図形の周の長さは、3 つの半円の弧の長さの和を求める。

(2) 斜線部分の図形の面積は AB を直径とする半円の面積から他の 2 つの半円の面積をひいた値を求める。

【解答】

$$\begin{aligned} (1) \quad (\text{斜線部分の図形の周の長さ}) &= 2\pi \times \frac{x+y}{2} \times \frac{1}{2} + 2\pi \times \frac{x}{2} \times \frac{1}{2} + 2\pi \times \frac{y}{2} \times \frac{1}{2} \\ &= \frac{\pi(x+y)}{2} + \frac{\pi x}{2} + \frac{\pi y}{2} = \frac{\pi(x+y) + \pi x + \pi y}{2} = \frac{2\pi x + 2\pi y}{2} \\ &= \pi x + \pi y \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (2) \quad (\text{斜線部分の図形の面積}) &= \pi \times \left(\frac{x+y}{2}\right)^2 \times \frac{1}{2} - \pi \times \left(\frac{x}{2}\right)^2 \times \frac{1}{2} - \pi \times \left(\frac{y}{2}\right)^2 \times \frac{1}{2} \\ &= \frac{\pi(x+y)^2}{8} - \frac{\pi x^2}{8} - \frac{\pi y^2}{8} = \frac{\pi(x^2 + 2xy + y^2) - \pi x^2 - \pi y^2}{8} \\ &= \frac{2\pi xy}{8} = \frac{\pi xy}{4} \end{aligned}$$

2章 平方根

1 次の数の平方根を求めなさい。

- (1) 25 (2) 19 (3) 0 (4) 0.16

【ポイント】

整数や小数の2乗になっている数は、根号を使わずに表しましょう。

正の数の平方根には、正の数と負の数の両方があることに注意しましょう。

【解答】

- (1) 25 の平方根は、 ± 5 (2) 19 の平方根は、 $\pm\sqrt{19}$
(3) 0 の平方根は、0 (4) 0.16 の平方根は、 ± 0.4

2 次のことは正しいですか。誤りがあれば の部分を正しくなおしなさい。

- (1) 64 の平方根は8である。 (2) $\sqrt{(-6)^2}$ は-6である。
(3) $\sqrt{16}$ は ± 4 である。 (4) $\sqrt{7} \times \sqrt{7}$ は7に等しい。
(5) $\sqrt{16} - \sqrt{9}$ は $\sqrt{7}$ に等しい。 (6) $(-\sqrt{5})^2$ は5に等しい。

【ポイント】

a が正の数のとき、 a の平方根の正の方を $\sqrt{a}$ 、負の方を $-\sqrt{a}$ と表します。

【解答】

- (1) 64 の平方根は ± 8 である。 (2) $\sqrt{(-6)^2}$ は6である。
(3) $\sqrt{16}$ は4である。 (4) 正しい。
(5) $\sqrt{16} - \sqrt{9}$ は1に等しい。 (6) 正しい。

3 次の大小関係にあてはまる自然数 a を、すべて求めなさい。

- (1) $2 < \sqrt{a} < 3$ (2) $9 < \sqrt{a} < 9.2$

【ポイント】

正の数 a , b について、 $a < b$ ならば、 $\sqrt{a} < \sqrt{b}$ となることを用いて考える。

【解答】

- (1) $2 = \sqrt{4}$, $3 = \sqrt{9}$ だから、 $2 < \sqrt{a} < 3$ は、 $\sqrt{4} < \sqrt{a} < \sqrt{9}$ となる。
したがって、答えは、5, 6, 7, 8
(2) $9.2 \times 9.2 = 84.64$ なので、 $9.2 = \sqrt{84.64}$ となる。また、 $9 = \sqrt{81}$,
だから、 $9 < \sqrt{a} < 9.2$ は、 $\sqrt{81} < \sqrt{a} < \sqrt{84.64}$ となる。
したがって、答えは、82, 83, 84

4 次の数を $\sqrt{a}$ の形にしろ。

(1) $2\sqrt{3}$

(2) $2\sqrt{7}$

(3) $4\sqrt{2}$

【ポイント】

正の数 a, b について、 $a\sqrt{b} = \sqrt{a^2 \times b}$, となることを用いて考える。

【解答】

(1) $2\sqrt{3} = \sqrt{2^2 \times 3} = \sqrt{12}$

(2) $2\sqrt{7} = \sqrt{2^2 \times 7} = \sqrt{28}$

(3) $4\sqrt{2} = \sqrt{4^2 \times 2} = \sqrt{32}$

5 次の(1)～(4)を、根号の中の整数ができるだけ小さくなるように、 $a\sqrt{b}$ の形になおしろ。

(1) $\sqrt{45}$

(2) $\sqrt{52}$

(3) $\sqrt{153}$

(4) $\sqrt{128}$

【ポイント】

前の問題と逆向きに考えると、 $\sqrt{a^2 \times b} = a\sqrt{b}$ となる。

【解答】

(1) $\sqrt{45} = \sqrt{3^2 \times 5} = 3\sqrt{5}$

(2) $\sqrt{52} = \sqrt{2^2 \times 13} = 2\sqrt{13}$

(3) $\sqrt{153} = \sqrt{3^2 \times 17} = 3\sqrt{17}$

(4) $\sqrt{128} = \sqrt{2^7} = \sqrt{2^6 \times 2} = 8\sqrt{2}$

6 次の計算をしろ。

(1) $\sqrt{11} \times \sqrt{3}$

(2) $\sqrt{10} \times \sqrt{20}$

(3) $\sqrt{18} \div \sqrt{6}$

(4) $9\sqrt{21} \div 3\sqrt{7}$

(5) $3\sqrt{7} + 2\sqrt{7}$

(6) $3\sqrt{5} - 6\sqrt{3} - 4\sqrt{5}$

(7) $\sqrt{72} - \sqrt{8}$

(8) $\sqrt{3} + \sqrt{27} - \sqrt{75}$

(9) $\sqrt{2}(\sqrt{8} + \sqrt{3})$

(10) $(\sqrt{3} - \sqrt{6})^2$

(11) $(\sqrt{5} + 2)(\sqrt{5} - 1)$

【ポイント】

(1)～(4) $\sqrt{a} \times \sqrt{b} = \sqrt{ab}$ や、 $\sqrt{a} \div \sqrt{b} = \sqrt{\frac{a}{b}}$ を利用して考える。

積の計算をする前に、素因数分解するとよい。

(5)～(8) 根号の中が同じ数は同じ文字、根号の中が異なる数は異なる文字のように考えて、文字式と同じように計算することができる。

(9)～(11) 分配法則や展開の公式を利用して考える。

【解答】

$$(1) \sqrt{11} \times \sqrt{3} = \sqrt{11 \times 3} = \sqrt{33}$$

$$(2) \sqrt{10} \times \sqrt{20} = \sqrt{2 \times 5} \times \sqrt{2 \times 2 \times 5} = \sqrt{2 \times 2^2 \times 5^2} = 2 \times 5 \times \sqrt{2} = 10\sqrt{2}$$

$$(3) \sqrt{18} \div \sqrt{6} = \sqrt{\frac{18}{6}} = \sqrt{3}$$

$$(4) 9\sqrt{21} \div 3\sqrt{7} = \frac{9\sqrt{21}}{3\sqrt{7}} = 3 \times \sqrt{\frac{21}{7}} = 3\sqrt{3}$$

$$(5) 3\sqrt{7} + 2\sqrt{7} = (3 + 2)\sqrt{7} = 5\sqrt{7}$$

$$(6) 3\sqrt{5} - 6\sqrt{3} - 4\sqrt{5} = (3 - 4)\sqrt{5} - 6\sqrt{3} = -\sqrt{5} - 6\sqrt{3}$$

$$(7) \sqrt{72} - \sqrt{8} = \sqrt{6^2 \times 2} - \sqrt{2^3} = 6\sqrt{2} - 2\sqrt{2} = 4\sqrt{2}$$

$$(8) \sqrt{3} + \sqrt{27} - \sqrt{75} = \sqrt{3} + \sqrt{3^3} - \sqrt{5^2 \times 3} = \sqrt{3} + 3\sqrt{3} - 5\sqrt{3} = -\sqrt{3}$$

$$(9) \sqrt{2}(\sqrt{8} + \sqrt{3}) = \sqrt{2}(\sqrt{2^3} + \sqrt{3}) = \sqrt{2^4} + \sqrt{2} \times \sqrt{3} = 4 + \sqrt{6}$$

$$(10) (\sqrt{3} - \sqrt{6})^2 = (\sqrt{3})^2 - 2 \times \sqrt{3} \times \sqrt{6} + (\sqrt{6})^2 = 3 - 2 \times \sqrt{3 \times 2 \times 3} + 6 = 9 - 6\sqrt{2}$$

$$(11) (\sqrt{5} + 2)(\sqrt{5} - 1) = (\sqrt{5})^2 + (2 - 1)\sqrt{5} - 2 = 5 + \sqrt{5} - 2 = 3 + \sqrt{5}$$

7 次の数の分母を有理化しなさい。

$$(1) \frac{\sqrt{2}}{\sqrt{3}}$$

$$(2) \frac{3}{2\sqrt{6}}$$

$$(3) \frac{\sqrt{3}+1}{\sqrt{2}}$$

$$(4) \frac{\sqrt{10}-\sqrt{2}}{\sqrt{5}}$$

【ポイント】

(1)～(4) 分母と分子に同じ数をかけて、分母に根号をふくまない形に変形することを分母の有理化という。

【解答】

$$(1) \frac{\sqrt{2}}{\sqrt{3}} = \frac{\sqrt{2} \times \sqrt{3}}{\sqrt{3} \times \sqrt{3}} = \frac{\sqrt{6}}{3}$$

$$(2) \frac{3}{2\sqrt{6}} = \frac{3 \times \sqrt{6}}{2\sqrt{6} \times \sqrt{6}} = \frac{3\sqrt{6}}{12} = \frac{\sqrt{6}}{4}$$

$$(3) \frac{\sqrt{3}+1}{\sqrt{2}} = \frac{(\sqrt{3}+1) \times \sqrt{2}}{\sqrt{2} \times \sqrt{2}} = \frac{\sqrt{3} \times \sqrt{2} + 1 \times \sqrt{2}}{2} = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{2}$$

$$(4) \frac{\sqrt{10}-\sqrt{2}}{\sqrt{5}} = \frac{(\sqrt{10}-\sqrt{2}) \times \sqrt{5}}{\sqrt{5} \times \sqrt{5}} = \frac{\sqrt{10 \times 5} - \sqrt{2 \times 5}}{5} = \frac{5\sqrt{2} - \sqrt{10}}{5}$$

8 次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。

(1) $7, \sqrt{46}$

(2) $-\sqrt{8}, -\sqrt{10}$

(3) $\sqrt{19}, 2\sqrt{5}$

(4) $\frac{48}{\sqrt{6}}, \frac{18\sqrt{2}}{\sqrt{3}}$

【ポイント】

正の数 a, b について、 $a < b$ ならば、 $\sqrt{a} < \sqrt{b}$ となることを用いて考える。

【解答】

(1) $7^2 = 49, (\sqrt{46})^2 = 46$ で、 $49 > 46$ であるから、

$$\sqrt{49} > \sqrt{46}$$

したがって、 $7 > \sqrt{46}$

(2) $8 < 10$ であるから、 $\sqrt{8} < \sqrt{10}$

負の数は0より小さく、絶対値が大きいほど小さいので、

$$-\sqrt{8} > -\sqrt{10}$$

(3) $\sqrt{19}, 2\sqrt{5}$

$$2\sqrt{5} = \sqrt{2^2 \times 5} = \sqrt{20}$$

$19 < 20$ であるから、 $\sqrt{19} < 2\sqrt{5}$

(4) $\frac{48}{\sqrt{6}}, \frac{18\sqrt{2}}{\sqrt{3}}$

それぞれ有理化すると、 $\frac{48}{\sqrt{6}} = \frac{48 \times \sqrt{6}}{\sqrt{6} \times \sqrt{6}} = \frac{48\sqrt{6}}{6} = 8\sqrt{6}$

$$\frac{18\sqrt{2}}{\sqrt{3}} = \frac{18\sqrt{2} \times \sqrt{3}}{\sqrt{3} \times \sqrt{3}} = \frac{18\sqrt{6}}{3} = 6\sqrt{6}$$

したがって、 $\frac{48}{\sqrt{6}} > \frac{18\sqrt{2}}{\sqrt{3}}$

9 $\sqrt{5} = 2.236$ として、次の値を求めなさい。

(1) $\frac{1}{\sqrt{5}}$

(2) $\sqrt{20} + \sqrt{45}$

(3) $(\sqrt{5} + 1)^2$

【ポイント】

分母の有理化をしたり，式の計算をしたりしてから代入すると計算が簡単になる。

【解答】

(1) $\frac{1}{\sqrt{5}} = \frac{\sqrt{5}}{\sqrt{5} \times \sqrt{5}} = \frac{\sqrt{5}}{5} = 2.236 \div 5 = \mathbf{0.4472}$

(2) $\sqrt{20} + \sqrt{45} = 2\sqrt{5} + 3\sqrt{5} = 5\sqrt{5} = 5 \times \sqrt{5} = 5 \times 2.236 = \mathbf{11.18}$

(3) $(\sqrt{5} + 1)^2 = (\sqrt{5})^2 + 2 \times \sqrt{5} + 1^2 = 5 + 2\sqrt{5} + 1 = 6 + 2\sqrt{5} = 6 + 2 \times 2.236 = \mathbf{10.472}$

10 $\sqrt{20-n}$ が整数となる自然数 n の値をすべて求めなさい。

【ポイント】

n は自然数だから， $20-n$ は， 20 より小さく， 0 以上の整数である。

そこで， $\sqrt{0}$ から $\sqrt{19}$ の中の数で，根号の中の数が，整数の 2 乗になる数を探す。

【解答】

n は自然数で，根号の中の数は 0 以上の数だから，

$20-n$ は， 20 より小さく， 0 以上の整数である。

よって， $\sqrt{20-n}$ は，根号の中の， $20-n$ が $0, 1, 2, 3, 4$ をそれぞれ 2 乗した数である
 $0, 1, 4, 9, 16$ のときに整数になる。

$20-n=0$ のとき， $n=20$ $20-n=1$ のとき， $n=19$ $20-n=4$ のとき， $n=16$

$20-n=9$ のとき， $n=11$ $20-n=16$ のとき， $n=4$

よって， $n=4, 11, 16, 19, 20$

11 $\sqrt{54n}$ が整数となる自然数 n のうち、もっとも小さいものを求めなさい。

【ポイント】

根号の中の $54n$ がある自然数の 2 乗になれば、 $\sqrt{54n}$ は整数になる。

【解答】

$$54 = 2 \times 3^3 = 2 \times 3 \times 3^2$$

これに 2×3 をかけると、 $2^2 \times 3^4$ となり、2, 3 のそれぞれの指数が偶数となる。

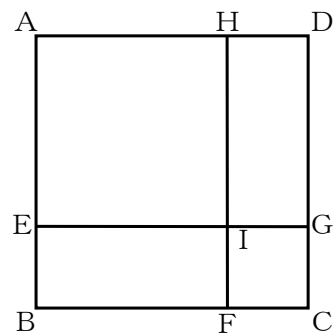
したがって、 $n = 2 \times 3$ とすると、

$$\sqrt{54n} = \sqrt{2 \times 3 \times 3^2 \times 2 \times 3} = \sqrt{2^2 \times 3^4} = 2 \times 3^2 = 18$$

18 は整数なので、 $\sqrt{54n}$ が整数となる自然数 n のうち、もっとも小さいものは、6 である。

答 $n = 6$

12 右の図で、四角形 ABCD, AEIH は、面積がそれぞれ 12cm^2 , 6cm^2 の正方形です。このとき、正方形 IFCG の面積を求めなさい。



【解答】

正方形 ABCD の 1 辺の長さは、 $\sqrt{12} = 2\sqrt{3}$ (cm)、正方形 AEIH の 1 辺の長さは、 $\sqrt{6}$ (cm)

$$FC = BC - BF = BC - EI = 2\sqrt{3} - \sqrt{6} \text{ (cm)}$$

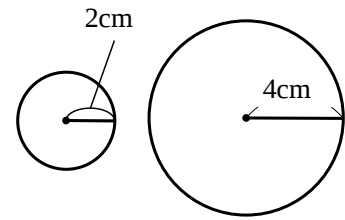
したがって、正方形 IFCG の面積は、 $(2\sqrt{3} - \sqrt{6})^2$ (cm^2)

$$(2\sqrt{3} - \sqrt{6})^2 = (2\sqrt{3})^2 - 2 \times 2\sqrt{3} \times \sqrt{6} + (\sqrt{6})^2 = 12 - 12\sqrt{2} + 6 = 18 - 12\sqrt{2}$$

答 $18 - 12\sqrt{2}$ (cm^2)

13 半径が 2 cm と 4 cm の 2 つの円について、次の問いに答えなさい。

(1) 周の長さが、この 2 つの円の周の長さの和に等しくなる円をつくるには、半径を何 cm にするとよいですか。



(2) 面積が、この 2 つの円の面積の和に等しくなる円をつくるには、半径を何 cm にするとよいですか。

【ポイント】

$$(\text{円の周の長さ}) = 2\pi \times (\text{半径}), \quad (\text{円の面積}) = \pi \times (\text{半径}) \times (\text{半径})$$

【解答】

(1) 半径が 2 cm の円の周の長さは、 $2\pi \times 2 = 4\pi$ (cm)

半径が 4 cm の円の周の長さは、 $2\pi \times 4 = 8\pi$ (cm)

したがって、周の長さが 12π cm の円の半径を求めるとよい。

円の半径を r cm とすると、 $2\pi r = 12\pi$

よって、 $r = 6$

答 6 cm

(2) 半径が 2 cm の円の面積は、 $\pi \times 2 \times 2 = 4\pi$ (cm²)

半径が 4 cm の円の面積は、 $\pi \times 4 \times 4 = 16\pi$ (cm²)

したがって、面積が 20π cm² の円の半径を求めるとよい。

円の半径を r cm とすると、 $\pi r^2 = 20\pi$ (cm²)

両辺を π でわると、 $r^2 = 20$

よって、 r は 20 の平方根だから、 $r = \pm\sqrt{20} = \pm 2\sqrt{5}$

円の半径は正の数だから、 $r = 2\sqrt{5}$

答 $2\sqrt{5}$ cm

3章 2次方程式

1 次の方程式のうち、解の1つが2であるものはどれですか。

(ア) $x^2+2x=0$ (イ) $x^2-7x+10=0$ (ウ) $(x+1)(x-2)=0$ (エ) $(x+2)^2=0$

【ポイント】

方程式の左辺に $x=2$ を代入して、等式が成り立つかどうか調べる。

【解答】

$x=2$ を代入して調べると、

(ア) $x^2+2x=2^2+2\times 2=4+4=8$ 右辺は0だから、成り立たない。

(イ) $x^2-7x+10=2^2-7\times 2+10=4-14+10=0$ 右辺は0で成り立つ。

(ウ) $(x+1)(x-2)=(2+1)(2-2)=0$ 右辺は0で成り立つ。

(エ) $(x+2)^2=(2+2)^2=16$ 右辺は0だから、成り立たない。

答 (イ)と(ウ)

2 平方根の考えを使って、次の方程式を解きなさい。

(1) $x^2=9$

(2) $3x^2=24$

(3) $x^2-81=0$

(4) $4x^2+1=9$

(5) $(x-1)^2=5$

(6) $2(x+3)^2-8=0$

【ポイント】

$x^2=k$, $(x+m)^2=k$ の形に変形し、「 $x^2=k$ ならば、 $x=\pm\sqrt{k}$ 」を用いて解くことができる。

【解答】

(1) $x^2=9$

$x=\pm 3$

(2) $3x^2=24$

$x^2=8$

$x=\pm\sqrt{8}=\pm 2\sqrt{2}$

(3) $x^2-81=0$

$x^2=81$

$x=\pm 9$

(4) $4x^2+1=9$

$4x^2=8$

$x^2=2$

$x=\pm\sqrt{2}$

(5) $(x-1)^2=5$

$x-1=\pm\sqrt{5}$

$x=1\pm\sqrt{5}$

(6) $2(x+3)^2-8=0$

$2(x+3)^2=8$

$(x+3)^2=4$

$x+3=\pm 2$

$x=-3\pm 2$

$x=-1, -5$

3 二次方程式 $x^2 - 12x + 3 = 0$ を、次のようにして解きました。□ にあてはまる数を書き入れなさい。

$$x^2 - 12x + 3 = 0$$

数の項を移項して、

$$x^2 - 12x = -3$$

左辺を $(x+m)^2$ の形にするために、□ を両辺にたして、

$$x^2 - 12x + \square = -3 + \square$$

$$(x - \square)^2 = 33$$

$$x - \square = \pm\sqrt{33}$$

$$x = 6 \pm \sqrt{33}$$

【ポイント】

平方の公式【 $x^2 + 2ax + a^2 = (x+a)^2$ ， $x^2 - 2ax + a^2 = (x-a)^2$ 】と、与えられた式をよく見比べて変形をする。

$x^2 - 12x = -3$ の左辺を $(x-a)^2$ の形に変形するために、両辺に、 x の係数 -12 の半分の 2 乗である 36 をたすと、 $x^2 - 12x + 36 = -3 + 36$ となり、左辺は、 $(x-6)^2$ になる。

【解答】

$$x^2 - 12x + 3 = 0$$

数の項を移項して、

$$x^2 - 12x = -3$$

左辺を $(x+m)^2$ の形にするために、□ **36** を両辺にたして、

$$x^2 - 12x + \square \text{ **36** } = -3 + \square \text{ **36** }$$

$$(x - \square \text{ **6** })^2 = 33$$

$$x - \square \text{ **6** } = \pm\sqrt{33}$$

$$x = 6 \pm \sqrt{33}$$

36 は x の係数である -12 の半分の 2 乗です。

4 次の方程式を、 $(x+\bigcirc)^2=\triangle$ の形に変形して解きなさい。

(1) $x^2+2x=1$

(2) $x^2-6x+3=0$

(3) $x^2+8x+4=0$

(4) $x^2-4x-1=0$

【ポイント】

両辺に、 x の係数の半分の2乗をたして、 $(x+\bigcirc)^2$ の形に変形する。

【解答】

(1) $x^2+2x=1$

$$x^2+2x+1^2=1+1^2$$

$$(x+1)^2=2$$

$$x+1=\pm\sqrt{2}$$

$$x=-1\pm\sqrt{2}$$

両辺に x の係数 2 の半分の 2 乗をたす。

(2) $x^2-6x+3=0$

$$x^2-6x=-3$$

$$x^2-6x+3^2=-3+3^2$$

$$(x-3)^2=6$$

$$x-3=\pm\sqrt{6}$$

$$x=3\pm\sqrt{6}$$

両辺に x の係数 - 6 の半分の 2 乗をたす。

(3) $x^2+8x+4=0$

$$x^2+8x=-4$$

$$x^2+8x+4^2=-4+4^2$$

$$(x+4)^2=12$$

$$x+4=\pm\sqrt{12}$$

$$x+4=\pm2\sqrt{3}$$

$$x=-4\pm2\sqrt{3}$$

両辺に x の係数 8 の半分の 2 乗をたす。

(4) $x^2-4x-1=0$

$$x^2-4x=1$$

$$x^2-4x+2^2=1+2^2$$

$$(x-2)^2=5$$

$$x-2=\pm\sqrt{5}$$

$$x=2\pm\sqrt{5}$$

両辺に x の係数 - 4 の半分の 2 乗をたす。

5 解の公式を利用して次の方程式を解きなさい。

(1) $x^2+x-3=0$

(2) $2x^2-3x-1=0$

(3) $x^2+4x+2=0$

(4) $3x^2-5x-2=0$

【ポイント】

解の公式「二次方程式 $ax^2+bx+c=0$ の解は、 $x=\frac{-b\pm\sqrt{b^2-4ac}}{2a}$ 」を利用する。

【解答】

(1) $x^2+x-3=0$

解の公式に、 $a=1$, $b=1$, $c=-3$

を代入すると

$$\begin{aligned} x &= \frac{-1\pm\sqrt{1^2-4\times1\times(-3)}}{2\times1} \\ &= \frac{-1\pm\sqrt{1+12}}{2} = \frac{-1\pm\sqrt{13}}{2} \end{aligned}$$

(2) $2x^2-3x-1=0$

解の公式に、 $a=2$, $b=-3$, $c=-1$

を代入すると

$$\begin{aligned} x &= \frac{-(-3)\pm\sqrt{(-3)^2-4\times2\times(-1)}}{2\times2} \\ &= \frac{3\pm\sqrt{9+8}}{4} = \frac{3\pm\sqrt{17}}{4} \end{aligned}$$

$$(3) \quad x^2 + 4x + 2 = 0$$

解の公式に, $a=1$, $b=4$, $c=2$

を代入すると

$$\begin{aligned} x &= \frac{-4 \pm \sqrt{4^2 - 4 \times 1 \times 2}}{2 \times 1} \\ &= \frac{-4 \pm \sqrt{16 - 8}}{2} = \frac{-4 \pm \sqrt{8}}{2} \\ &= \frac{-4 \pm 2\sqrt{2}}{2} = -2 \pm \sqrt{2} \end{aligned}$$

$$(4) \quad 3x^2 - 5x - 2 = 0$$

解の公式に, $a=3$, $b=-5$, $c=-2$

を代入すると

$$\begin{aligned} x &= \frac{-(-5) \pm \sqrt{(-5)^2 - 4 \times 3 \times (-2)}}{2 \times 3} \\ &= \frac{5 \pm \sqrt{25 + 24}}{6} = \frac{5 \pm \sqrt{49}}{6} = \frac{5 \pm 7}{6} \\ x &= \frac{5+7}{6} \text{ から } x=2, \\ x &= \frac{5-7}{6} \text{ から } x=-\frac{1}{3} \\ x &= 2, -\frac{1}{3} \end{aligned}$$

6 次の方程式を解きなさい。

$$(1) \quad (x-5)(x+3)=0$$

$$(2) \quad x(x+6)=0$$

$$(3) \quad x^2 - 5x + 6 = 0$$

$$(4) \quad x^2 + 10x + 21 = 0$$

$$(5) \quad x^2 - 2x - 24 = 0$$

$$(6) \quad x^2 + 3x - 40 = 0$$

$$(7) \quad x^2 - 12x = 0$$

$$(8) \quad -2x^2 + 12x - 18 = 0$$

【ポイント】

因数分解して, 「 $AB=0$ ならば, $A=0$ または $B=0$ 」を利用して解く。

【解答】

$$(1) \quad (x-5)(x+3)=0$$

$$x-5=0 \text{ または } x+3=0$$

$$x=5, -3$$

$$(2) \quad x(x+6)=0$$

$$x=0 \text{ または } x+6=0$$

$$x=0, -6$$

$$(3) \quad x^2 - 5x + 6 = 0$$

$$(x-2)(x-3)=0$$

$$x-2=0 \text{ または } x-3=0$$

$$x=2, 3$$

$$(4) \quad x^2 + 10x + 21 = 0$$

$$(x+3)(x+7)=0$$

$$x+3=0 \text{ または } x+7=0$$

$$x=-3, -7$$

$$(5) \quad x^2 - 2x - 24 = 0$$

$$(x-6)(x+4)=0$$

$$x-6=0 \text{ または } x+4=0$$

$$x=6, -4$$

$$(6) \quad x^2 + 3x - 40 = 0$$

$$(x+8)(x-5)=0$$

$$x+8=0 \text{ または } x-5=0$$

$$x=-8, 5$$

$$(7) \quad x^2 - 12x = 0$$

$$x(x-12)=0$$

$$x=0 \text{ または } x-12=0$$

$$x=0, 12$$

$$(8) \quad -2x^2 + 12x - 18 = 0$$

$$x^2 - 6x + 9 = 0$$

$$(x-3)^2 = 0$$

$$x-3=0$$

$$x=3$$

両辺を-2でわって

7 次の方程式を解きなさい。

(1) $x^2 - 49 = 0$

(2) $x^2 + 3x + 2 = 0$

(3) $x^2 - 3x - 4 = 0$

(4) $x^2 + 3x - 18 = 0$

(5) $x^2 + 4x - 3 = 0$

(6) $3x^2 - 4x - 2 = 0$

(7) $6x^2 - x - 1 = 0$

(8) $\frac{1}{2}x^2 - \frac{1}{2}x - 1 = 0$

【ポイント】

はじめに、平方根の考えを利用できないか、因数分解をして解くことができないかを考え、どうしても解けないときは解の公式を利用しよう。

【解答】

(1) $x^2 - 49 = 0$

$$x^2 = 49$$

$$x = \pm 7$$

(2) $x^2 + 3x + 2 = 0$

$$(x+2)(x+1) = 0$$

$$x+2=0 \text{ または } x+1=0$$

$$x = -2, -1$$

(3) $x^2 - 3x - 4 = 0$

$$(x-4)(x+1) = 0$$

$$x-4=0 \text{ または } x+1=0$$

$$x = 4, -1$$

(4) $x^2 + 3x - 18 = 0$

$$(x+6)(x-3) = 0$$

$$x+6=0 \text{ または } x-3=0$$

$$x = -6, 3$$

(5) $x^2 + 4x - 3 = 0$

$$x = \frac{-4 \pm \sqrt{4^2 - 4 \times 1 \times (-3)}}{2 \times 1}$$

$$= \frac{-4 \pm \sqrt{16+12}}{2}$$

$$= \frac{-4 \pm 2\sqrt{7}}{2}$$

$$x = -2 \pm \sqrt{7}$$

(6) $3x^2 - 4x - 2 = 0$

$$x = \frac{-(-4) \pm \sqrt{(-4)^2 - 4 \times 3 \times (-2)}}{2 \times 3}$$

$$= \frac{4 \pm \sqrt{16+24}}{6}$$

$$= \frac{4 \pm 2\sqrt{10}}{6}$$

$$x = \frac{2 \pm \sqrt{10}}{3}$$

(7) $6x^2 - x - 1 = 0$

$$x = \frac{-(-1) \pm \sqrt{(-1)^2 - 4 \times 6 \times (-1)}}{2 \times 6}$$

$$= \frac{1 \pm \sqrt{1+24}}{12}$$

$$= \frac{1 \pm \sqrt{25}}{12}$$

$$= \frac{1 \pm 5}{12}$$

$$x = \frac{1+5}{12} \text{ または } x = \frac{1-5}{12}$$

$$x = \frac{1}{2}, -\frac{1}{3}$$

(8) $\frac{1}{2}x^2 - \frac{1}{2}x - 1 = 0$

$$x^2 - x - 2 = 0$$

$$(x-2)(x+1) = 0$$

$$x-2=0 \text{ または } x+1=0$$

$$x = 2, -1$$

両辺に 2 をかけて

8 解が次の(1)～(3)のような数になる2次方程式を、それぞれ1つずつつくりなさい。

(1) $2, -1$

(2) $\pm\sqrt{3}$

(3) -5

【ポイント】

$x=a, x=b$ を解とする2次方程式のひとつは、 $(x-a)(x-b)=0$ です。

【解答】

(1) $x=2, -1$ を解とする2次方程式は、 $(x-2)(x+1)=0$

(2) $x=\pm\sqrt{3}$ を解とする2次方程式は、 $x^2=3$

(3) $x=-5$ を解とする2次方程式は、 $(x+5)(x+5)=0$ よって、 $(x+5)^2=0$

9 x についての2次方程式 $x^2+ax-8=0$ の解の1つが -2 であるとき、 a の値を求めなさい。
また、この方程式のもう1つの解を求めなさい。

【ポイント】

方程式の解は方程式を成り立たせる文字の値なので、解の1つである $x=-2$ を代入して、 a の値を求める。

【解答】

2次方程式 $x^2+ax-8=0$ に、この方程式の解である $x=-2$ を代入すると、

$(-2)^2+a \times (-2)-8=0$ が成り立つ。

$4-2a-8=0$ より、 $-2a=4$ よって、 $a=-2$

$a=-2$ をもとの式に代入すると、 $x^2-2x-8=0$

これを解くと、 $(x-4)(x+2)=0$ となり、 $x=4, x=-2$

したがって、答 $a=-2$, もう1つの解は、 $x=4$

10 次の㉠, ㉡の2次方程式は, どちらも解の1つが2です。このとき, 下の問いに答えなさい。

$$\textcircled{ア} \quad x^2 - 4ax + 3b = 0$$

$$\textcircled{イ} \quad x^2 + ax - 2b = 0$$

(1) a, b の値を求めなさい。

(2) ㉠, ㉡のもう1つの解を, それぞれ求めなさい。

【ポイント】

方程式の解は方程式を成り立たせる文字の値なので, 解の1つである $x=2$ を㉠, ㉡に代入して, a, b の値を求める。

【解答】

(1) $x=2$ を㉠, ㉡の方程式に代入すると,

$$\textcircled{ア} \quad 2^2 - 8a + 3b = 0$$

$$\textcircled{イ} \quad 2^2 + 2a - 2b = 0$$

$$\text{これら2つの式を連立させて, } \begin{cases} -8a + 3b = -4 \\ 2a - 2b = -4 \end{cases}$$

この連立方程式を解くと, $a=2, b=4$

答 $a=2, b=4$

(2) $a=2, b=4$ を㉠, ㉡の方程式に代入すると,

$$\textcircled{ア} \quad x^2 - 4 \times 2x + 3 \times 4 = 0$$

$$\text{よって, } x^2 - 8x + 12 = 0$$

$$(x-2)(x-6) = 0$$

$$x = 2, 6$$

$$\textcircled{イ} \quad x^2 + 2x - 2 \times 4 = 0$$

$$\text{よって, } x^2 + 2x - 8 = 0$$

$$(x-2)(x+4) = 0$$

$$x = 2, -4$$

答 ㉠ $x=6$ ㉡ $x=-4$

11 次の問いに答えなさい。

(1) 2 次方程式 $x^2+ax+b=0$ の解が -5 と 6 のとき、 a と b の値をそれぞれ求めなさい。

(2) 2 次方程式 $x^2+x-12=0$ の小さいほうの解が、2 次方程式 $x^2+ax+a+5=0$ の解の 1 つになっています。このとき、 a の値を求めなさい。

【ポイント】

(1) 2 次方程式 $x^2+ax+b=0$ の解が -5 と 6 なので、この式に、 $x=-5, 6$ を代入して、 a, b の値を求める。

【解答】

(1) 方程式の解が -5 と 6 なので、 $x=-5, 6$ を $x^2+ax+b=0$ に代入して、

$$(-5)^2+(-5)\times a+b=0 \quad 6^2+6a+b=0$$

$$\text{これら 2 式を連立して、} \begin{cases} 25-5a+b=0 \\ 36+6a+b=0 \end{cases}$$

この連立方程式を解くと、 $a=-1, b=-30$

答 $a=-1, b=-30$

(2) 2 次方程式 $x^2+x-12=0$ を解くと、 $(x-3)(x+4)=0$ で、 $x=3, -4$

したがって、小さいほうの解は $x=-4$

$x=-4$ を $x^2+ax+a+5=0$ に代入すると、

$$(-4)^2+a\times(-4)+a+5=0$$

$$-3a+21=0$$

$$3a=21$$

$$a=7$$

答 $a=7$

【各章問題 利用一覧】

○ 本文中に掲載の問題は、各教科書発行者の許可を得て、各教科書（令和２年度使用）から利用しており、以下一覧で記しておく。

１章 多項式（式の展開と因数分解）

- １ ; 「数学 ３」 学校図書株式会社(以下「学図」) p.41 の 1
- ２ ; 「改訂版 中学校数学 ３」 数研出版株式会社(以下「数研」) p.40 の 2(1)～(3)
- ３ (1)～(2) ; 数研 p.40 の 3(1),(3)
(3)～(8) ; 「中学数学 ３」 教育出版株式会社(以下「教出」) p.42 の 2(5),(6),(9)～(12)
- ４ ; 「新版 数学の世界 ３」 大日本図書株式会社(以下「大日本」) p.42 の 3
- ５ (1) ; 大日本 p.42 の 2 (1),(2)
(3) ; 学図 p.41 の 5 (2)
- ６ (1)～(2) ; 「新しい数学 ３」 東京書籍株式会社(以下「東書」) p.33 の 1
- ７ (1) ; 「中学数学 ３」 日本文教出版株式会社(以下「日文」) p.41 の 8 (1)
(2) ; 大日本 p.42 の 4 (1)
(3)～(5) ; 日文 p.41 の 8(4),(5), 同 p.27 のチャレンジ(1)
- ８ (1)～(16) ; 日文 p.41 の 9(1),(2),(4),(5),(7),(9), 同 p.41 の 10(1),(2),(4),(6),
同 p.41 の 11(1),(2),(4),(5), 同 p.41 の 12(2),(4)
- ９ (1)～(3) ; 日文 p.42 の 3
- 10～11 ; 「未来へひろがる数学 ３」 株式会社新興出版社啓林館(以下「啓林館」) p.38 の 9,
同 p.36 の 7
- 12 例題 ; 教出 p.43 の 9
- 12 ; 日文 p.43 の 4
- 13 ; 東書 p.33 の 6
- 14 ; 数研 p.42 の 4

2 章 平方根

1 (1)～(4) ;学図 p.68 の 1

2 (1)～(5) ;東書 p.62 の 1,

(6) ;教出 p.70 の 2(3)

3 例題 ;啓林館 p.45

3 (1)～(2) ;啓林館 p.62 の 2

4 (1)～(3) ;日文 p.67 の 1

5 (1)～(4) ;大日本 p.74 の 5

6 (1)～(10) ;教出 p.70 の 4

(11) ;数研 p.68 の 5(3)

7(1)(2) ;東書 p.53 の例 6

(3)(4) ;学図 p.69 の 2

8(1)～(4) ;日文 p.68 の 3

9(1)～(3) ;数研 p.69 の 4

10 ;数研 p.70 の 4

11 ;数研 p.70 の 5

12 ;学図 p.69 の 5

13 (1)(2) ;教出 p.71 の 12

3 章 2 次方程式

1 ; 教出 p.92 の 1

2 ; 数研 p.91 の 2

3 ; 啓林館 p.83 の 3

4 (1)～(4) ; 数研 p.91 の 3

5 (1)～(4) ; 数研 p.91 の 4

6 (1)～(8) ; 数研 p.91 の 1

7 (1)～(8) ; 数研 p.91 の 5

8 (1)～(3) ; 大日本 p.96 の 2

9 ; 日文 p.88 の 3

10 (1)～(2) ; 学図 p.94 の 2

11 (1)～(2) ; 東書 p.88 の 2(1)(2)

中学校 3 年生用 振り返り学習教材＜数学＞ 2020 年 7 月

発 行 文部科学省 〒100-8959 東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 2 号

協 力 一般社団法人教科書協会，一般社団法人教科書著作権協会

東京書籍株式会社，大日本図書株式会社，学校図書株式会社，教育出版株式会社，株式会社新興出版社啓林館，
数研出版株式会社，日本文教出版株式会社

著作権 文部科学省 本教材は，学校現場での子供たちの学びを支援することを目的として，一般社団法人教科書協会，
一般社団法人教科書著作権協会ならびに各教科書発行者の許可を得て文部科学省において作成・送付したもので
す。各学校の設置者，学校等におきましては，当該目的・趣旨以外での利用はご遠慮ください。